



▼『新甲佐町史』を基に江戸時代の人々について講演する佐藤さん



次代に受け継ぐ郷土の歴史

第9回『新甲佐町史』歴史研修会を開催

7月2日（日）町生涯学習センターで、第9回『新甲佐町史』歴史研修会が開催されました。

同研修会は、甲佐の自然環境生物、原始・古代、中世、近世、近代、現代、民俗、緑川の9つのテーマに沿って編さんされた『新町史』を基に、甲佐の今と昔を考え成り立ちを追うことを目的に町教育委員会が主催。今回は「甲佐町における伊勢信仰」という演題で、講師の県文化財保護審議会委員で町史編さん委員長を務めた佐藤征子さん（仁田子区）が『新町史』刊行後に発見された史料を基に講演し、

37人が本町の歴史を学びました。町指定文化財の『緒方家文書』には伊勢参詣日記と142冊の伊勢暦が所蔵されており、江戸時代を生きた本町の人々が伊勢参りに熱心であった様子も紹介されました。第10回は、甲佐町の旧石器時代から奈良時代を考古学的な観点から検討した内容をテーマとして、9月3日（日）に開催します。

空手を通して心身を鍛錬

龍野小学校で「体験道場」を開催

6月30日（金）龍野小学校（高森康裕校長158人）で、「体験道場」が開催され、同小5・6年児童53人が空手に挑戦しました。

同教室は、武道を通して子どもたちの健全育成を図ることを目的に町教育委員会が主催。

今回、平成28年熊本地震の義援金を本町に寄贈されている熊本県実践空手道連盟「勇誠塾」から松岡勇治さんを講師に迎えて、あいさつの声出し、突きや蹴りを実践しました。児童たちは、力いっぱい腕を突き出し、熱心に授業に取り組みました。



▲空手の突きを実践練習する龍野小児童たち



▲震災復興応援メッセージを送る林家きく磨さん

応援メッセージで本町を激励

落語家・林家きく磨さん

熊本地震から1年を過ぎ、落語家の林家きく磨さんから本町へ応援メッセージが寄贈されました。きく磨さんは落語家として2010年に真打に昇進、現在は「くまもと大好き大使」にも就任されており、精力的に活動されています。本町では6月13日（火）に町生涯学習センターで落語会を開催。会場を大きな笑いで沸かせました。きく磨さんは、「母のふるさと、甲佐町でやっと落語会を開くことができました」と話され、本町の震災復興へ向けて「笑顔がいちばん！いつも楽しく」とメッセージを送りました。

農業や自然に親しんで

上益城農業協同組合が食農教育雑誌贈呈

7月14日（金）町教育長室で、食農教育雑誌『ちゃぐりん』の贈呈式が行われました。

同誌は、（一社）家の光協会が発行する月刊誌で、農業の大切さや自然との関わり、共生の役割などについて次代を担う子どもたちに理解を深めてもらうことを目的に製作されています。

贈呈式では、上益城農業協同（梶原哲代表理事組合長）の本郷博行常務より町内4小学校の4年生を対象として、合計95冊が蔵田勇治町教育長に贈呈されました。



▲上益城農業協同組合が『ちゃぐりん』を町へ贈呈

DVについての理解を深める

甲佐中学校で人権教室を開催



▲身近に潜む「デートDV」について知ってもらうために、DVについての寸劇を披露する熊本県人権擁護委員上益城部会の委員



▲町役場を表敬訪問した保護司会の皆さん

安全・安心な社会を築く

第67回社会を明るくする運動

7月7日（金）郡内で、「第67回社会を明るくする運動」が行われました。

上益城地区保護司会（赤星良一会長）が主催。同運動は、犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、明るい社会を築くことを目的として、全国で展開しています。

7月は運動強調月間に当たることから、同会が郡内4町を巡回し啓発活動を行いました。

本町を訪れた同会の一行は、町役場を表敬訪問し、内閣総理大臣および県知事のメッセージを伝達。赤星会長が「犯罪や非行のない社会を目指しがんばります」とあいさつしました。

7月1日（土）甲佐中学校（井上幸三校長229人）で、「人権教室『デートDV』について」および「スマホ・ケータイ安全教室」が熊本県人権擁護委員協議会と熊本地方法務局の主催で実施されました。

同教室は、同委員が寸劇などを演じて、近年親しい男女間で起こる暴力「ドメスティック・バイオレンス（DV）」について若年層に学んでもらうことや、人権についての基本的な理解を深めることを目的に開催。「DV」が年代や世代を問わず発生していることや、インターネットを悪用した人権侵害などの事案に注意する意識を持ってもらうことを啓発するために、郡内の中学校を巡回して実施。今回は、同中2・3年生を対象に教室が開催されました。

寸劇では、同委員が孫の交際について心配する祖父母の様子を熱演。交際中の男女間での思いがけない一言や態度が「デートDV」につながることを説明し、「相手を尊重する気持ちと自分を大切にすることを大切にしよう」と呼び掛けました。